

令和3年度 学校評価における自己評価について

認定こども園 鳥取第五幼稚園

1 園の教育目標

『 明るく たくましく こころ豊かな子ども』

～すこやかな心と体をもち、自分で考え行動する子ども～

- (1) 自ら考え、自主的に行動する子ども
- (2) 健やかな心と体をもち、のびのびと生活する子ども
- (3) 友だちの気持ちを思い、誰とでもなかよく遊ぶ子ども
- (4) 素直に感動する心をもち、創造豊かに活動していく子ども
- (5) 豊かな生活経験の中から物事を知的に理解し、判断できる子ども

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに、設定した学校評価の具体的な目標や計画

- 「またやってみたい 明日につなげる保育」～主体的な遊びが広がる保育環境を考える～
 - ・発達年齢に合わせた「主体性の育ち」「主体的な遊び」について考える。
 - ・自園の園庭の魅力と改善点を探り、探求心を深める環境の工夫について考える。
 - ・研究保育、研究会を通して研究討議を行い、保育者の資質向上を図る。
- 園児一人一人の育ちに添った支援の在り方を、家庭や関係機関との連携を深めながら進めていく。
- 衛生管理の徹底と感染症対策を考慮した保育や行事の取り組み方を考える。

3 評価項目の達成及び取組状況

| 評価項目 | 結果 | 理由 |
|--|----|--|
| (1)教育活動の充実 ・健康な体づくり ・異年齢保育の充実 ・環境構成と援助の工夫 | A | ・日々の保育の中で積極的に外遊びを取り入れたり、“歩く”に着目した園周辺の散歩や園外保育を計画的に行うことで体力が付き、いろいろな活動に意欲をもって取り組む姿が見られた。 ・コロナ禍でも交流可能な園庭での活動に着目し、一年を通して園庭遊びに取り組んだ。保育者同士で連携を取り、意識をもって関わったり仕掛けたりすることで、子ども同士の関わり方や遊びが変わったように思う。 ・今ある環境(園庭)の利点と課題について話し合い、改善できることを職員で役割分担を行った。日陰対策、水場の確保、身近な自然素材を環境として取り入れることから行った。まだまだ途中経過ではあるが、保育者が意識をもって環境構成を行うことで子ども達の遊びも変わってきたと感じている。 |

| | | |
|--------------|---|---|
| (2) 教職員の資質向上 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・研究保育を実施し研究会で意見交換することで、ベテランと若手職員、互いの資質向上につながっていったのではないかと考える。 ・主体的に遊ぶための環境作りについて研究を深め、職員が一丸となって環境構成としての作業を行えたことは良かった。今後も継続していきたい。 |
| (3)教育支援 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭や専門機関と連携を深めながら、一人一人の発達や個性、支援の在り方について職員間で共通理解し、丁寧な対応を心がけた。 ・就学時健診、入学前の聞き取りでは、園での様子、保護者の願いを丁寧に伝え、スムーズな移行となるよう、連携をとるようにした。 ・担任、加配職員が連携を取り、指導の在り方についてその都度話し合いながら進めていくことができた。 |
| (4)健康・安全管理 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や安全指導はその都度振り返り、反省を次に生かせるよう話し合った。 ・不審者対応訓練は、外部講師を依頼していたが感染拡大の為できなかった。 ・感染症対策としての手洗い、うがいの励行、手指消毒、マスクの着用は定着してきた。園内の消毒も職員間で共通理解をし、取り組んでいる。 |

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

| 結果 | 理由 |
|----|--|
| A | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの気持ちに寄り添い、一人一人にあった援助を行うことで育ちにつながることができた。 ・コロナ禍でも密にならない園庭での遊びに着目し、一年を通して外遊びを多く取り入れた。子ども達が生き生きと遊ぶ姿やつぶやきを様々な方法で家庭に発信していくことで、保育の理解や園の特色教育が伝わっているように思う。 ・保護者の方の理解と協力があり、状況を鑑みながら各行事に取り組むことができたことは、保護者からも一定の評価が得られている。小規模園だからこその取り組み方について今後も検討していきたい。 ・情報の発信については、ホームページ等を利用し積極的に、そしてより丁寧に行っていく必要がある。 ・子ども達が主体的に遊ぶための環境作りについては、計画性をもち保護者の方の協力も得ながら今後の取り組みとして行っていきたい。 |

◎「3. 4.」の評価結果

| | |
|---|--------------------|
| A | 十分達成されている |
| B | 達成されている |
| C | 取り組まれているが、成果が十分でない |
| D | 取組が不十分である |

5 今後取り組むべき課題

| 課 題 | 具体的な取り組み方法 |
|-----------|--|
| ○教育の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・特色教育の年間計画の見直しをすると共に、子どもの興味や意欲、積み重ねが一人一人の力や自信となるよう、個々の成長を把握し援助の仕方を工夫していく。また、育ちをつなぐための職員間の連携も行う。 ・園庭や畑の活用の仕方について見直しをし、環境を整える。子ども達が主体的に活動し、遊びがより充実していく為の保育計画や環境の構成を、保護者の協力も得ながら進めていく。 |
| ○健康・安全管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策の意識の向上、子どもの命を守る教育の充実を図り、安全意識を高めると共に、保護者にも啓発していく。 ・危機管理についての話し合いを行い、園内外の怪我や事故を未然に防ぐ。 |
| ○幼保小連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・状況を考慮しながら、近隣の保育園・小学校との交流を図る。 ・まずは職員同士がつながることで、接続カリキュラム作成に向けた話し合いができるようにする。 |
| ○教職員の資質向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・園外研修(オンライン研修も含めた)への参加、園内研修の持ち方(外部講師の依頼)を工夫することで教職員の資質向上を図る。 |
| ○情報発信 | <ul style="list-style-type: none"> ・園務システムを活用し、保護者には積極的に情報発信をしていくと共に、職員の事務処理の効率化につないでいく。 |